



「稲田の除塩プロジェクト」で東日本大震災被災地の水田を再生へ -プロジェクトの報告及び復興支援討論会の開催について-

概要

被災地の現状や課題について共有し、復興の在り方について考える場として、震災直後から復興支援活動に携わる「がんばっぺし福岡応援団」の活動報告ならびに岩手県陸前高田市より復興に取り組む3名の方々をお招きした「復興支援討論会」を2月18日(土)に開催します。被災地の方の現地の体験談、ボランティアを中心とした「農地の除塩プロジェクト」、さらに、ソーシャル・ビジネスの活用可能性を踏まえた持続可能な復興支援の在り方を話し合います。

■背景

平成23年9月、「がんばっぺし福岡応援団」の呼びかけで、本学教員・学生をはじめとした36名のボランティアが東日本大震災で津波の被害を受けた岩手県陸前高田市を訪れ、「農地の除塩プロジェクト」の活動を行いました。津波被害を受けた稲田の除塩対策として、好塩菌を散布する方法を取り入れました。好塩菌には塩類を好んで食べ増殖する性質があり、土壌の塩分を吸収し塩害を緩和する効果があると見込まれています。昨年9月に好塩菌と一緒に蒔いた菜種が、昨年末にはすくすく成長していることが分かりました。

今回の討論会にお招きする岩手県陸前高田市の方々とは復興支援活動を通じて交流を深め、討論会の前半で被災地の現状や課題について共有していただくことになりました。

■内容

東日本大震災から約11ヵ月。

現地では、国や自治体の取り組み、市民レベルでのさまざまな活動が継続されるなか、復興の兆しはなかなか見えづらく現地の生の情報も入ってきにくい現実があります。

この度、被災地の現状や課題について共有し、復興の在り方について考える場として、震災直後から復興支援活動に携わる「がんばっぺし福岡応援団」の活動報告会ならびに岩手県陸前高田市より復興に取り組む3名の方々をお招きした「復興支援討論会」を下記のとおり開催します。

◆日時：平成24年2月18日(土) 14:00～17:00

◆場所：九州大学箱崎キャンパス(理系地区) 21世紀交流プラザI 多目的ホール

◆主催：がんばっぺし福岡応援団

<https://sites.google.com/site/ganbappeshi/>

◆共催：九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター

◆内容：

【第1部 14:00～15:15】

- がんばっぺし福岡応援団 活動報告
- 陸前高田市からお招きした3名の体験談
- ソーシャル・ビジネスの活用可能性

【第2部 15:30～17:00】

- パネル + オープンディスカッション(討論会)

■効果

東北地方太平洋沖地震で大きな被害を受けた被災地では、風評被害、農地回復、商業地域の再生などさまざまな課題が山積しています。持続可能な復興支援の在り方について、参加者のフロアからも議論に参加していただくことによって、“3.11”から約1年経った今、改めて考え、行動するきっかけを作りたいと考えています。

また、ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターと共催することで、参加者の今後の行動にとって新たな視点を提示することができ、より幅広い復興支援の継続へとつながると考えます。

■今後の展開

がんばっぺし福岡応援団では、今年の3月に陸前高田市に行って、現地の復興支援活動が続ける予定です。また、ソーシャル・ビジネスへの展開を考えながら、持続的な復興支援のきっかけを作っていきたいと考えています。さらに、今回の討論会への参加者とのネットワークを形成し、情報共有や連携の可能性を模索する予定です。

【お問い合わせ】

工学研究院准教授 大嶺 聖

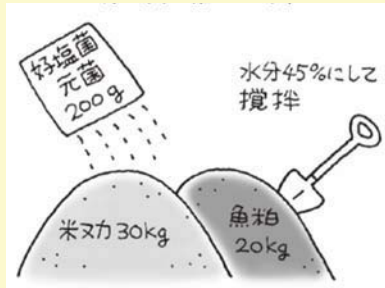
電話：092-802-3382

FAX：092-802-3378

携帯：090-9498-3006

Mail：oomine@civil.kyushu-u.ac.jp

好塩菌堆肥の作製方法



2～3日すると50℃程度で発酵してくるので、切り返す。

写真-1 混合して3日後の好塩菌堆肥の状態

有機系廃棄物を用いるため、非常に安価に作製することができる(1トン作るのに3～4万円)。

好塩菌の分離と耐塩性試験

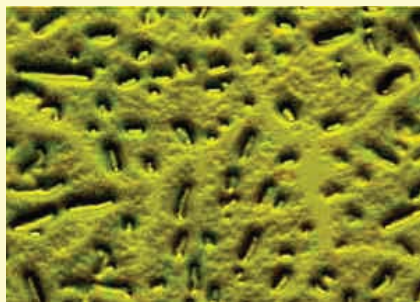


写真-2 堆肥から分離した好塩菌

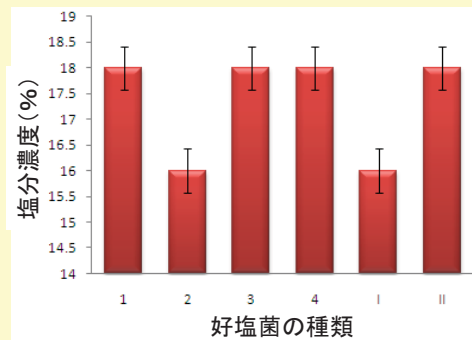
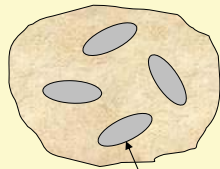


図-1 耐塩性試験結果

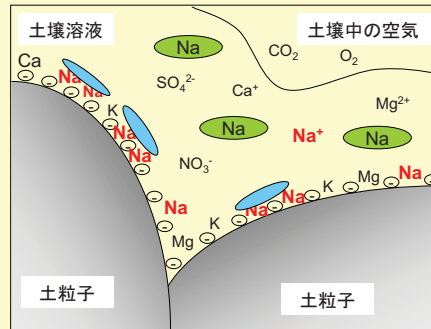
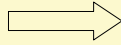
16～18%程度の塩分濃度でも増殖できる数種類の好塩菌が存在することが確認できた。

好塩菌の効果のイメージ

好塩菌堆肥



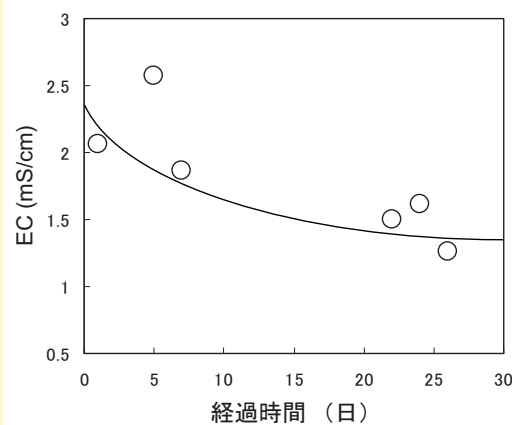
好塩菌



● Na 塩分を吸収した好塩菌

● 微生物から分泌される有機酸と塩類が結合

実験結果 好塩菌堆肥を混合した土壌の電気伝導率ECの経時変化



※好塩菌堆肥を混合することで、塩類濃度を約1ヶ月で4割程度低減できる。

※アジア地域で問題となっている塩類集積土壌への適用も期待できる。